平成27年度　矢掛町立川面小学校学校評価書

校長　　渡 辺 英 信　　印

本校のミッション
・確かな学力を培い豊かな心と健やかな体を備えた，たくましい児童を育てる「明るく元気のある学校づくり」を行う。 ・長く培われた伝統を踏まえ，川面地区住民の教育に対する熱意に応える「信頼される学校づくり」を行う。

学級数	7学級	児童（生徒・園児）数	98人
職員数	12人	家庭数	70戸
学校関係者評価委員	川上　義弘　（川面公民館長）　野木　哲夫（民生児童委員）　髙木　克典（PTA会長） 本嵜　広信　（PTA副会長）　増田　典子（前公民館主事）　赤木　恒雄（倉敷芸術科学大学教授）		
専門評価委員	赤木　恒雄（倉敷芸術科学大学教授）		

A　成果をあげている　B　ほぼ成果をあげている　C　あまり成果をあげていない　D　成果をあげていない

	領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	考える子の育成	確かに学ぶ子どもを育てる。	日々，わかりやすい授業を展開し，それぞれの教科の基礎・基本の定着を図る。 児童一人ひとりの実態を把握し，特に，困り感のある児童に的確な支援を行う。	岡山型学習指導のスタンダードをもとに充実した授業を1時間でも多く，積み重ねていく。 ユニバーサルデザイン化された授業を意識的に実践していく。	○児童へのアンケート（国語）で「授業の内容がよくわかる」の回答が増えているか。 ○各教科の単元テストで，平均点が80点を超えたか。 ○“焦点化”“視覚化”“共有化”された授業により，全員の児童が一定の単位時間，反応できているか。（客観的な視点で確認する。）	*児童へのアンケート（5月，11月国語科実施） 「授業の内容がよくわかる」学年差はあるものの全体的にはやや増えている。 *授業が分かりやすい（全教科）　児童95% *多くの学年多くの単元テストで，平均点80点を越えることができた。 *学級に必要な支援を学習指導案に明記し，「焦点化・視覚化・共有化」を意識した授業を継続できつつある。（児童の反応の実態把握は客観的にできていない。）	B
2		意欲的に学ぶ子どもを育てる。	児童が，主体的に学習する態度を育成するとともに，自分の考えと友だちの考えとの関わりにより，コミュニケーション能力の向上を図る。	めあてに対する自分の考えをもち，その考えを表現しようとする力を育成する。 “聞く力”を身につけるため，話の聞き方に重点を置き，学年の発達段階に応じた取組を実践する。	○全員の児童が自分の考えをもち，ノートに書いたり，一日一回以上発表したりすることができたか。 ○相手の顔を見て，しっかりと聞けたか。（低：内容の理解はできたか，高：自分の考えと比べたか）	*1日1回以上発表している児童　84% *自分の考えを書くことは，ほとんどの児童ができている。自分の考えをもたせるための時間確保やノート指導など，児童の実態に応じた指導の継続や授業の工夫が今後も必要と思われる。 *話を聞く，話の内容を理解することは，まだ十分とは言えない。今後も児童の実態に応じた指導の継続が必要である。	B
3		感性・想像力・言語力の豊かな子どもを育てる。	読書に親しむ児童の育成を目指す。	読書の楽しさが味わえるように，読書タイムやブックルの活用，低学年の読み聞かせ等により，本と触れ合う場を設定する。 全校での貸し出し数の目標を図書委員会で設定する。	○読書の楽しさを実感している児童が90%以上いるか。 ○設定した全校での貸し出し数（6000冊）の目標に達することができたか。	*読書の時間が楽しみな児童　92% *図書室の本の貸し出し冊数2，871冊（1月末） ブックルでの貸し出し冊数　2，330冊（1月末） この調子で読書を奨励していけば，6,000冊の目標が達成できそうである。 *学年相応の本を読んでいるかどうかは，課題がある。読書内容については個別に指導が必要である。	B
4	やさしい子の育成	自分や友だちを大切にするやさしい心を育てる。	いじめや仲間はずれのないお互いを認め合える学級集団づくり，異学年との仲間づくりをする。	アセスやQUを活用して，各学級の課題を明確にしながら，望ましい集団づくりの取組をする。 なかよし月間の設定や縦割り班活動を定期的に実施する。	○学校が楽しいと答える児童が95%以上いるか。（昨年94%）	*学校が楽しい　児童93%　保護者　96% *3・4年アセス　5・6年hyper-QU 全学年教育相談（6月，10月実施） 自己肯定感や友達関係など気になる児童がいるので，今後も全校遊びや各学級のいじめをなくす取組をしていく必要がある。	B
5		ふるさとを愛する心を育てる。	地域人材や教材を活用した授業を行ったり，地域行事への参加を奨励したりして，ふるさとを愛する心を育てる。	地域人材・教材を活用した授業を年1回以上する。 全学年がホタルに関連した環境学習を行う場を設定する。	○各学年，年1回は，地域教材を使った授業や，地域の方に指導していただく授業を実施することができたか。 ○ホタルについての学習を意識することができているか。	*川面の良さを見つけた児童　92% 特色がある教育保護者　88% 総合的な学習や生活科などで地域人材・教材の活用がどの学年もできている。 *ホタルに関連した環境学習は，それぞれの学年で行われている。今後とも，年間計画に沿って系統的に行っていく。	B
6		発達段階に応じた人権感覚を育てる。	日頃接することのない人やいろいろな立場の人にやさしく接することができる児童を育成する。	児童が，障害者や高齢者の方や他校の児童などと交流できる授業（活動）を，各学年で積極的に実施する。	○双方向による交流学習（お互いに意見や感想が言える学習）を年1回以上実施することができたか。	*高齢者・障害者・幼稚園児との交流 1年：子ども祭り・昔遊び（高齢者とのふれあい）　2年：子ども祭り　3年：フラワーパーク苗植え（授産施設の方と年2回）　4年：合同学習・福祉体験・手話学習　5年：西備支援児童との交流学習・手話学習・幼保園児との交流　6年：道徳障害者理解予定	A
7	強い子の育成	進んで体を鍛えようとする子どもを育てる。	外遊びをはじめ，さまざまな運動に意欲的に取り組もうとする児童を育成する。	業間時間にサーキット等の全校による運動を定期的に実施していく。 また，高学年を対象として，水泳と陸上の放課後練習を実施して，運動の楽しさを実感させ意欲をもたせる。	○90%以上の児童が休み時間には外で遊んだか。（昨年86%） ○水泳や陸上の練習へ多くの児童が各自の目標をもって意欲的に参加できたか。	*外で遊んでいる児童　85% 縦割り班遊び，学級遊び，遊具チャレンジ等，業間時間の外遊びを工夫した。 *運動委員会が学期に1回全校遊びを計画・実施した。 *水泳・陸上の練習や大会に多くの児童が参加した。 *体育科では，水泳・陸上・器械運動等の指導を工夫した。 *町運動指導員との連携により，学期に1回の姿勢指導や姿勢を良くするための取組を継続的に行っている。	B
8		基本的な生活習慣の定着を図る。	「矢掛町あ・は・は」運動，「早寝・早起き・朝ご飯」運動を充実させる。 学校の日常生活での生活習慣を身に付けさせる。	「校外でのあいさつ」や「家庭やトイレ等のはきものそろえ」を家庭と連携して指導・啓発する。 ほたるキラリ賞の観点をはっきりし，多くの児童の良い点を取り上げて，全校の場で称揚する。	○相手に心の伝わるあいさつができるようになったか。 ○多くの月で，校内表彰される児童（グループ・学級）が出たか。	*あいさつ　児童97%　保護者　94% 返事　　児童97%　保護者　85% はきものそろえ　児童91%　保護者　61% 児童のあいさつは，校内では意識できているが，家庭や地域では意識が低いようだ。はきものそろえは，下足箱の方はよいが，トイレのスリッパはまだまだである。 *校内表彰は，7月あいさつ 11月外遊び，12月あいさつ	C
9	開かれ・信頼される学校	積極的に情報交換を行い，開かれた学校づくりを推進する。	毎月地区の全戸に学校だよりを配布したり，，ホームページの更新をしたり，PTA行事や各種委員会を開いたりして，地域・家庭と連携を図る。	できるだけ多くの機会を捉えて，保護者や地域の方々とコミュニケーションを図る。得た情報等は，校内で共通理解を図り，改善の参考としたり，発信したりする。	○家庭や地域との交流の機会を積極的に設定することができたか。また，日々の学校の様子や取組を　学校だよりやホームページ，学級通信等で機会を捉えて発信することができたか。	*ホームページは月1回のペースで更新。「今年度のあゆみ」コーナーを新設。 学校だより・学級通信等で，児童の様子や取組，お知らせ等を発信することができた。 *地域行事・PTA行事等に参加し，親睦を深めた。	A
10		教員としての資質向上を目指すために様々な研修機会を設定する。	全教職員の共通理解のもと，各自が創意工夫した取組や実践を重ねていくことで，教員としての資質向上を図る。	校務分掌をもとに積極的な取組を計画，実践し，それぞれの反省や考察から次のステップへつなげていく。	○教育課程の反省や検討のもととなる振り返りにより自己分析を行い，個々の充実感を得ることができたか。	*全員が，自らの校務分掌に関する起案を計画的に行い，実践することができた。行事等についての反省や次年度への課題についても，全員で検討し共通理解を図ることができた。	B

分析・改善方策

・それぞれの努力で学校全体が落ち着いており，子どもたちが穏やかな表情で学校生活を楽しむことができている。やさしい子の育成に向け，より多くの体験や機会を通じて，人とかかわることの大切さを学んでいかせたい。
・全ての学級で，一人一人を大切にした“わかりやすい授業”が定着しつつある。子どもたち個々の能力を生かしながら，「話す・聞く」力をさらに伸ばすために，学級集団としての機能を高める工夫や取組を継続していきたい。
・個々の学力に応じた指導・支援へ向け，時間調整や人員の確保，学習内容の充実，家庭学習との連携など，改善と工夫を加えながら，1つ1つの取組を継続していきたい。
・子どもたちの安全を守ることに最大の努力を図りながら，子どもたちの健康で強い身体づくりをめざし，全職員の共通理解のもと企画立案した活動を積極的に展開していきたい。
・中学校への進学や将来へ向けて，生きていく力の育成を全職員が意識したうえで，本校の特色を生かしながら，それぞれの発達段階を考慮した系統性のある指導・支援を継続していきたい。

学校関係者評価

○初めて学校評価に関わった委員が多いが，次期学習指導要領を見据えて学校・地域のよさを生かした教育活動を計画的に展開し，達成基準をほぼ満たすことができていると考える。今後も，町教育委員会の指導の下で小小連携・小中連携を推進し，社会生活を営むうえで必要な「生きる力」や「たくましさ」を育んでいってほしい。
○「考える子の育成」に向けて具体的取組が多くなされている。授業形態の工夫やきめ細やかな指導を重ね，個々の能力をさらに伸ばしてほしい。「やさしい子の育成」では，ホタルに関連した環境学習によって故郷を愛する心が育てられていることを高く評価したい。地域の方とのかかわりや上・下級生のかかわりなど人間関係形成力を深められる貴重な場でもある。「強い子の育成」では，今年度新たな取組が見られ意義が感じられる。保護者との信頼関係を深めながら，児童の自己肯定感を高めていってほしいと思う。
○設置者への要望として，教職員が児童と向き合いきめ細やかな指導をしたり学力向上を図ったりするために，児童支援加配や特別支援教育支援員配置という人的支援とともに，自学支援システム等の環境整備を引き続きお願いしたい。また，安全・安心な学校づくりのために緊急連絡用のメール配信システム導入を強く要望する。

専 門 評 価 （ 本年度は なし ）			
評価項目	観 点	学校の現状（〇優れている点 △改善が望まれる点）	改善の方向性
1. 自己評価の状況	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
2. コミュニケーション力の向上	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
3. 不登校児童生徒の解消	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
4. 学習不振児童生徒の解消	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
5. 学校の組織運営	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
6. 学校と保護者・地域社会等との連携協力	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
7. 特別支援教育	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
8. 学校の総合的な状況	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		

来 年 度 の 重 点 ・ 方 針
〇徳・・・個々が育んでいるやさしい心をより深めるため，人とかかわる体験や学習を意欲的に取り入れていく。
〇知・・・個々の学力を着実に高めるため，日々の授業を充実し，個別のサポートを組織的に展開していく。
〇体・・・心に繋がる健康なからだをつくるため，さまざまな運動の場や機会を積極的に企画・実践していく。
〇人・・・上記の取組について，学校(教職員)だけでなく，地域をはじめ多くの方々の指導・支援をいただきながら，将来へ向けての生きる力を総合的に育成していく。
※平成28年度 文部科学省人権教育研究指定校事業を受けて
研究テーマ『生きる喜びを自覚し，互いの魅力を認め合うことのできる児童の育成』 ～様々な人とのかかわりやコミュニケーションを通して～
☆“生きる喜び”・・・自らの思いを大切にしながら生活すること，“魅力”・・・人それぞれの持ち味を総じて